

## 協調と相互に結びついた世界—AP 通信社への演説

国際通貨基金 専務理事  
クリスティーヌ・ラガルド

2012 年 4 月 3 日 米国・ワシントン DC

おはようございます。本日このように、皆様の前でお話できることを光栄に存じます。ジャーナリズムの世界でこれまで長年にわたって優れた手腕を発揮し、この度退任される AP 通信社の社長兼 CEO のトム・カーリー氏、およびキャサリン・キャロル氏に厚く御礼を申し上げます。

国際通貨基金 (IMF) にとり、全ての加盟国、とりわけ IMF の最大の出資国である米国と、良好かつオープンな対話を継続することは重要であり、この面でのメディアの皆様の役割は不可欠なものとなっています。

本日私がお伝えしたいメッセージはシンプルなものです。すなわち、世界経済は、米国の強力な経済、そして経済面での力強いリーダーシップを必要としているということです。

前世紀で何度となく我々は、人々が共通の価値観や人間の可能性、経済の可能性に対するゆるぎないビジョンの下に団結するにあたり、米国のリーダーシップが不可欠であることを目撃してきました。

私たちはこれを、第二次世界大戦後のマーシャルプランで経験しました。また、冷戦中と冷戦後、そしてこれまで半世紀に渡り米国が世界経済を牽引するなか、目撃してきました。

結果として、より繁栄した世界、より平和な世界、そしてより良い世界が実現しました。

そして今再び、米国が、他のパートナー国と密接に連携することで、より良い未来へ世界を導くことができるのです。

我々は試練の時にあります。世界経済は、大恐慌以来最も深刻かつ痛みを伴う経済危機から脱しようとしています。同時に、日ごとに世界は小さくなり、相互関連性が高まっています。つまり、ある国での経済の混乱が、世界の人々に影響を及ぼす可能性があるのです。

この点を念頭に置いて、今朝は、以下の3点についてお話いたします。

- 第一に、世界経済の現状。
- 第二に、特に米国の関与がなぜ必要なのかという理由。
- 第三に、なぜ協調がそれほど不可欠であり、また、私が考える IMF が特に重要である理由。

## 世界経済

それでは、世界経済から始めます。世界経済を取り巻く状況は数カ月前と比較すると、若干改善していると言ってもいいでしょう。いくらかの雪解けの兆し—ここ数十年で最も長く、最も厳しい冬の時代の後の歓迎すべき兆しが見えます。欧州では金融安定化として、米国ではより力強い成長と雇用として現れているこの兆しは励みになります。

ただし、私たちは誤った安心感に惑わされるべきではありません。

回復は、依然として極めて脆弱です。欧州の金融システムは、引き続き重圧下にあります。債務水準は、公的・民間とも相変わらず極めて高いままです。根強い高失業率は、社会構造全体の圧力となっています。原油価格の上昇は、大きなダメージとなる可能性があります。

このような状況の中、現時点において政策担当者は、自己満足あるいは閉鎖的な考えに陥ることなく、現在有している余地を使い仕事を仕上げるのが肝要です。

我々が現在ここにあるのは、全くの偶然の結果ではなく、勇気ある政策行動の結果であるということを忘れてはなりません。20カ国グループ(G20)を通じ協調的行動がとられましたが、ここで米国は指導的役割を果たしました。また、米国の連邦準備制度及び欧州の欧州中央銀行(ECB)を含めた主要な中央銀行が、市場の落ち着きを取り戻すために大胆な措置を講じました。

それでは、軌道を維持するには、どうすればよいでしょうか。三つの幅広い側面を見る必要があります。

第一に安定性です。私たちは、金融部門の落ち着きを確保しなければなりません。そしてこの点において、伝播を止めるうえで役立つと期待される防火壁を強化するとして、欧州の人々の決断を私は歓迎します。そしてこれは、IMFの財源拡充などにより実現する、一段と堅牢な世界レベルの防火壁を支えることとなるでしょう。

さらに広く言えば、自らの利益の追求ではなく社会的な利益を優先する、より強固かつ安全な金融セクターが必要であり、これは、より協調的な優れた規制を意味します。この面では、私たちは既にある程度前進することができました。米国を含めた世界の国々は、バーゼル III プロセスを通し、銀行に関する国際的な規制基準を強化するために連携しています。我々は早急に、合意事項を協調して効果的に実施することが必要であり、またデリバティブやシャドバンキング・システムをめぐる規制やクロスボーダーな銀行の実効的な破たん処理制度など、残された課題について合意する必要があります。

第二に、成長です。当面、成長には需要が不可欠です。しかし、同時に、力強く安定した成長のためには、供給サイドも忘れてはなりません。

成長の押し上げは、すなわち特に先進国でインフレの兆候が実際に見られないことから、金融政策を用いて経済活動を支えることを意味します。

また、財政政策により、可能な限り経済活動を支えることも意味します。大半の国々が徐々に債務を減少する必要があります。圧力下にある一部の国々は、今日にでも財政赤字を削減する以外に選択の余地がありません。ただし、世界の国々が同じように緊縮政策を急げば、自滅の危険性があります。米国のような資金調達コストが低い加盟国は、余りにも性急に進めるべきではありません。

とは言うものの、過度に現状に満足すべきではないでしょう。米国の公的債務の合計は、既に対 GDP 比で 100% を越えており、今後、社会保障支出の増大の抑制と歳入増加など、財政の改善に向けより強力な取り組みが必要なことは明らかです。

また、依然として家計の債務負担が米国の経済回復の足かせとなっており、150 万の住宅ローンが不履行となっているという驚くべき統計もあります。この負担を緩和するには、さらに多くの措置が必要となります。住宅ローンの償却を促し借り換えを緩和する策が考えられると思いますが、実際に米国当局は既にこれらを掲げた新たな措置を提案しました。こうした政策を積極的に実施することにより、犠牲の大きい差し押さえが回避され、家計の資金繰りが改善され、消費を押し上げることになるでしょう。

銀行は、一層の融資ができるよう支援を受けました。住宅所有者によるさらなる消費を実現すべく、住宅所有者を支援すべきなのです。

第三に、雇用です。豊かな生活を実現するには、有給雇用ほど重要なことはありません。したがって、雇用は優先事項でなければなりません。これは非常に困難な課題です。今日、全世界の失業者数は 2 億人を越えています。米国でも約 1,300 万

人が職を見つけることができません。世界中で若い求職者が苦境にあり、特に心が痛みます。

また、成長は誰もが経済の好転から恩恵を受けられるよう、さらに包括的なものになるべきです。これは世界各国にとり重要であり、例えばアラブの春に伴う希望に満ちた切なる思いを満たすことが必要です。

### 相互に結びついた世界

米国の人々は、次のように自問するかもしれません。「世界のその他の国々で起きていることが、なぜ我々に関係があるのか。我が国にだって、自国の問題があるではないか」

答えはシンプルです。今日の世界では、自らの裏庭にとどまるという精神的なぜいたくを味わう余裕はありません。

考えてみましょう。私が子供のころ、世界はもっとシンプルな場所でした。自分の周囲、自分が属するコミュニティ、そして生まれ育った国で起きていることが、毎日の暮らしの全てだったと言っても良いでしょう。

しかし、そういう時代は過去のものとなりました。今日では、深く絡み合った世界が地球をジグザクに覆っています。1980年以降、世界の貿易量は5倍に増加しました。今回の経済危機までに、世界の資本移動は、1995年の水準から3倍以上に膨らみました。

こうした結びつきは、至る所で見られます。身近な例として、車の製造過程について考えてみましょう。最新の車には40,000種類以上のパーツが必要であり、たった一つの部品が欠けるだけで世界のサプライチェーンは行き詰まる可能性があります。実際、昨年日本で起こった破壊的な地震により、一部の部品が入手不可能となり、米国の郊外にある車のディーラーの在庫が不足し始めました。

より大きなスケールで考えるならば、世界金融危機の話は、実は世界的な相互関係の問題だと言えます。

おそらく、他のどの国よりも米国はこのグローバルな結びつきと絡み合っており、世界中のあらゆる情勢に影響を与え、また影響されています。

その背景には、非常に影響力のある金融セクターの存在があります。IMFの分析によると、外国銀行は約5.5兆ドルの米国資産を保有していますが、米国の銀行は2.5兆ドルの対外資産を保有しています。これは極めて大きな数字であり、銀行の病が

国境を越えて容易に伝わる可能性があることを示します。また、これまでに思い知らされたように、金融セクターの病は特に悪性であり、その影響は拡散し、即座に大きな影響をもたらします。

また、米国は世界貿易の 11% を占めるなど、世界の貿易ネットワークに大きく組み込まれています。

特に欧州とこのようにした関係が強力です。米国の輸出の約 5 分の 1 が欧州向けです。一方、EU の貿易の 3 分の 2 が域内貿易ですが、米国への輸出はその残りの約 5 分の 1 を占めます。

今般の経済危機が発生する前、米国の S&P500 企業は、欧州で利益の 20% を稼いでいました。米国投資の海外市場トップ 10 のうち五つが欧州にあります。また、米国の欧州企業は、約 350 万人を雇用しています。

したがって、欧州の経済が低迷すると、米国の経済回復や雇用は危機にさらされる可能性があります。このように、米国は欧州の情勢、そして世界の情勢に大いに関係しているのです。

## 協調と IMF

ここで、さらに大きなポイントについてお話します。統合は大きなリスクをもたらしますが、大きな恩恵も約束します。国際的な協調を高めることが鍵となります。

歴史が示すように、国家が連帯の精神に基づいて共通の難題に立ち向かえば、誰もが勝者となります。国家が反目しあって、独自の道を歩み、自国の利益のみを追求すれば、誰もが敗者となります。

米国の思想家ラルフ・ワルド・エマーソンは「世界が統一を欠き、解体しているのは、人間自身が結束していないからだ」といいました。

前世紀の半ば、これを理解した先見の明に富んだ人物が二人いました。米国人ハリー・デクスター・ホワイトと英国人ジョン・メイナード・ケインズです。国々が孤立し時には争った、前世紀の前半の困難と荒廃を乗り越えてきた二人は、よりよい世界を築く決意を固めました。IMF の設立者です。

IMF の背後にある考えはシンプルなものです。すなわち、加盟国が共通の利益のもとに協力し必要なときに互いに助けあえば、誰もが共に繁栄するだろう、というものです。

この考えは、1944 年に重要でしたが、現在も同じように重要です。

それでは、IMFとは何か。

IMFは、187の加盟国が世界の金融の安定性という唯一無二のマンドートのもと協力する場で、経済クラブ或いは巨大な信用組合のようなものです。我々は、資金をプールし必要に応じて加盟国に生命線を提供する、加盟国にとってのパイプの役割を果たします。

IMFは、設立当時からあらゆる面で、加盟国の抱える難題を、その大きさや種類にかかわらず、克服する支援をしてきました。

破壊的な戦争の後、欧州諸国が経済の健全性と活力を取り戻そうと、マーシャルプランに取り組んだ時、IMFはそこにいました。

戦争の後、アフリカやアジアの新独立国が、希望と楽観主義に満ちたなか、国の基盤を見出そうと模索していたとき、IMFはそこにいました。

ラテンアメリカ諸国が、泥沼のような状態だった債務問題から抜けだそうとしていた1980年代、IMFはそこにいました。

ベルリンの壁が崩壊し、新生国家が瓦礫を踏み分け明るい新しい世界に足を踏み入れ、ゼロから国家制度を築こうとしていたとき、IMFはそこにいました。

つい3年前に世界経済が崩壊の危機にあったときも、IMFはそこにいました。

今日IMFは、世界にとりかかってないほど不可欠な存在となっています。なぜか。IMFは、世界の混乱に対する幾重にも重なった保護策を提供し、加盟国が混乱を最小限に抑えながら、環境の変化に適応できるように支援することが可能です。

ただし、今日の世界でこうした対応を効率的に実施するには、IMFにはさらなる財源が必要です。初めにも申し上げたように、欧州諸国がまず防火壁への取り組みを進めました。次は我々の火力を増強する番です。今日のクォータの対世界GDP比は、過去と比べ極めて低く、60年前は現在より3~4倍も高いものでした。埋めるべき余地は大いにあるのです。

皆様は私よりご存知ですが、アメリカの田園地帯では、「バーンレイジング（納屋の棟上げ）」と呼ばれる、近隣の人々が集まって納屋を建設する習わしがあります。納屋は巨大でコストがかかり、建築するのに苦労しますが、農業にとってなくてはならないものです。ここでの教訓はシンプルです。コミュニティは集団で、個人では不可能なことを遂行することができ、しかも全員が恩恵を受ける、ということ

す。私たちは、まさにこのような連携のもと、世界レベルでのリソースをプールすることを検討すべきです。

**IMF**は、米国を含めた全加盟国にとり、優良な投資先だということをお伝えしなければなりません。皆様の資金は必要になるまで利用されず、利息を得ることができます。資金は手堅く利用されます。**IMF**のプログラムは、その効果を確保するために常に厳格な条件を伴っています。

これまで、**IMF**財源に拠出して資金を失った加盟国はありません。私が在職中、これは変わらないということをお約束いたします。

最後にもうひとつ指摘したい点は、世界経済の構造プレートがシフトしており、ブラジル、ロシア、インド、そして中国といったダイナミックな新興市場国がさらに重大な役割を果たすようになっており、こうした変化も**IMF**に反映されています。**IMF**の加盟国は、これら諸国のクォータのシェアの拡大に向けた改革を承認しました。現在、加盟国はこれら改革を実践せねばならず、**IMF**は今年後半に開催される年次総会までに進展させるように、全加盟国に求めています。

改革が実施されても、米国はこれから先も**IMF**最大の出資国として、リーダーとしての役割を維持していくことになります。

## 最後に

最後に三つの考えをお伝えして、終わりにしたいと思います。

第一に、協調は結果を出すことができます。20世紀を通し、国際コミュニティが協力し、特に米国が指導的な役割を担うことで、何が成し遂げられるのかを私たちは経験してきました。今再び、米国の経済的リーダーシップが求められています。

二番目に、相互関係が無限に広がっていることで世界は混乱しており、協調の理念は、以前ジョン・F・ケネディ元米国大統領が以下を述べた時代と変わらず不可欠です。「地理学により我々は隣人となり、歴史により我々は友人となり、経済学により我々はパートナーとなり、必要性により我々は協力者となった」。重要な経済的な問題に直面した今こそ、全世界の国が米国を先導的なパートナーとして再び結束する時です。

第三に、**IMF**は、まさにこの目的のために、半世紀以上に設立されました。**IMF**は、アメリカ合衆国を含めた加盟国のために存在しています。

**IMF**を支援してください。活用してください。そして、我々と共に行動しましょう。

ご清聴ありがとうございました。